

4 みんな一生懸命働きなさい。

以上申し上げて、私のシベリア労苦記の報告といたします。

強制抑留者が語り継ぐ労苦

山梨県 岩沢 一男

一、出生から終戦まで

私は、山梨県都留市盛里曾雌で出生。町立旭高等小学校を卒業、家業を手伝っていましたが、昭和十九（一九四四）年十二月一日、現役兵として東部第六部隊（東京麻布）に入隊。大東亜戦補充要員として在北朝鮮古茂山衣第四三部隊第五中隊（歩兵）に転属、古茂山地方の警備に当たっていたところ、昭和二十年八月九日、ソ連軍がソ満国境を破って南下したとの報に接した。八月十五日正午の終戦の詔勅は部隊長から夕点呼のとき伝達されたが、誰も信ぜず、日本軍は神の軍隊で負け

ることはない、デマだと言っていたが、それでも戦争が終わればみんな生きて帰れるぞと一面、安心したものでした。

昭和二十年八月二十三日、部隊は興南に集結、兵器を興南女学校に収めて武装解除され、そこに收容されて捕虜となりました。

八月末頃、私どもの部隊を主力に千人くらいの梯団が編成され「東京へ帰るのだ、早く早く」とせき立てられ、喜び勇んで興南港から大きな貨物船に乗せられました。船は日本海に出て六日間もかかってウラジオストック港に入港。夜中ににわかの上陸。「約束が違うぞ」と兵が言う、ソ連将校が拳銃一発を空に向けて発砲、それで終わり。黙って歩くこと五十キロメートル、原始林を通り石炭掘削の町、アルチョムに連行されました。

二、アルチョム第二收容所での労苦生活

アルチョムは露天掘りで有名な良質石炭の採取

場でしたが、戦争中ソ連囚人を使い、次はドイツの軍人捕虜、次いで私ども日本人捕虜を人夫に使うということでした。収容所は半地下式の丸太積み造り（ログハウス）の棟が十棟も並び、周りには有刺鉄条網四面に、二階建の望楼から衛兵が銃で監視するという厳重さでした。

一棟に百人くらい居住。三段式ベッドで、一人の居場所は畳一畳ほどの広さですから全くウサギ小屋でした。

収容所には二千人くらい収容され、一組百人単位で三交代で入坑、地下六十メートルくらいの坑穴で掘削、トロッコ貨車に石炭を満載してソ連人の運転で外に運搬するという方式です。ソ連の地方人と一緒にですからノルマに追われることもなく割合気楽に働きましたが、地下採炭ですから粉塵が多く肺に入り病人が続出しました。

作業は一週間おきの三交代、冬でも地下では寒くなく、その点助かりました。ただ衣服は着たきりで支給されず、入浴は月二回くらい。シラミが

発生して体じゅう、毛布、下衣にもいっぱい、発疹チフスも出たり大騒ぎでした。ここも冬はマインス四〇度まで下がり、宿舎では毎日帰りに石炭を持ち帰って暖をとりました。

衛生管理は割合よく、高熱者や体の弱い者は休養室で休ませ、重症者は入院ができましたので助かりました。

給食は定量の支給が少なくいつも空腹でしたが、時折一緒に働くソ連人が黒パンや煙草を差し入れてくれて感激しました。

炭坑の仕事は月に一回休みがありました。その日はソ連将校の家の使役、掃除等に行き、黒パンをもらうのが楽しみでした。

昭和二十一年六月、第二収容所へ「日本新聞」が配達された頃から、ソ連共産党の政治部将校が私どもの洗脳教育だと言って「レーニン、スターリンの革命史」や「唯物論」とか難しい講義を始め、「日本より天皇制を打倒せよ」などという青年行動隊運動が活発になりました。私どもは「赤

旗の歌」など歌って、とにかく早く日本にダモイ（帰国）することだけ願っていました。

三、ハラシヨールポータでダモイ

私どもの第二收容所では所長訓示で「よく働き、よく共産主義を勉強した者は先に日本へ帰すのだ」と事ごとに言っていました。昭和二十三年五月一日の朝突然、收容所長命令で「第二收容所の諸君は入所以来二年半もソ連の戦後復興に大働きをしてありがたく、約束によってスターリン閣下から日本ダモイの命令があった」と得意な声で下達された。それから徹夜で持ち物検査、何もかも取り上げられ裸同然で翌朝の汽車（貨物車）に押し込まれて、一昼夜走ってナホトカ港に到着。五月五日早朝、日の丸をなびかせて接岸した日本郵船の「明優丸」という大きな汽船に乗り込み、久しぶりに日本の音楽の流れる船内で「真っ白い日本の米の飯」をいただき、これで苦勞して生きてきた甲斐があったと戦友たちと涙して抱き

合って喜びました。翌五月六日朝、舞鶴港に上陸。舞鶴で一泊。GHQの慎重な検査を受け、晴れて故郷に帰り着きました。

四、言い残したいお願い

私は帰国後、家（盛里）で農業に従事しながら冬期は炭焼きをしたり真剣に働きました。昭和二十八年、富士吉田市に移住。よい家族に囲まれ生活も安定して最愛の妻とともに平和な生活を樂しみ、シベリアの勞苦をしのんでいます。

そこで、私は家族や国民の皆さんに、次のような言葉を遺言したいと思います。

1 生命の大切さを思い、絶対に戦争はしない
で下さい。

2 家庭では父母を大切にし、みんな仲よく、
いつも一生懸命に働いて下さい。

3 健康に留意し、長生きして下さい。

以上申し上げて、私のシベリア抑留勞苦記の報告を終わります。